

令和5年度

事業報告書

自令和5年4月1日 至令和6年3月31日

公益財団法人 中近東文化センター

令和5年度事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1. 組織運営

(1) 理事会・評議員会開催状況

下記会議を開催、各議案を採択、審議の上、承認を得た。

- ① 令和5年5月30日 第1回理事会 (WEB会議)
- 【議案】 ア. 令和4年度事業報告及び決算承認の件
イ. 理事の任期満了に伴う再任の件
ウ. 代表理事(理事長)選定の件
エ. 新任理事候補選任の件
オ. 評議員の招集について(定款第18号)
カ. 理事長報告及び業務執行理事報告(定款第24号)
キ. 公益財団法人JKAの申請に関する決議について
- ② 令和5年6月21日 第1回評議員会 (於:当法人会議室)
- 【議案】 ア. 令和4年度事業報告及び決算承認の件
イ. 評議員任期満了に伴う再任の件
ウ. 理事任期満了に伴う再任の件
エ. 新任理事選任の件
オ. 法人の運営状況報告
- ③ 令和6年2月21日 第2回理事会 (WEB会議)
- 【議案】 ア. 令和6年度事業計画承認の件
イ. 令和6年度収支計画承認の件
ウ. 理事長及び業務執行理事報告(定款第24条)
エ. 評議員会の招集について(定款第18条)
- ④ 令和6年3月13日 第2回評議員会 (於:当法人会議室)
- 【議案】 ア. 令和6年度事業計画承認の件
イ. 令和6年度収支計画承認の件
ウ. 法人の運営状況報告

(2) 寄付金・助成金の受け入れ

令和5年度の各事業は、下記法人及び自治体の助成金等により、実施した。

- ① 公益財団法人 JKA (下記2(1)①～②及び④に充当)

- ② 公益財団法人 出光美術館（下記 2.（1）①に充当）
- ③ 公益財団法人 住友財団（下記 2（1）①～②に充当）
- ④ 独立行政法人 日本学術振興会（下記 2（1）③に充当）
- ⑤ 千葉工業大学（下記 2（1）①③に充当）
- ⑥ 三鷹市（下記 2（2）①イ、（5）①に充当）
- ⑦ 武蔵野文化生涯学習事業団（下記 2（2）①イ、②アに充当）

2. 事業活動

中近東文化に関する調査研究、知識普及、資料収集・保管・展示・提供

（1）中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所

① 第 36 次カマン・カレホユック発掘調査（令和 5 年）

（大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

第 36 次カマン・カレホユック発掘調査は、7 月初旬から 9 月初旬にかけて、北区、南区の 2 発掘区で調査を行った。特に、「文化編年の構築」を主目的としている北区では、前 3 千年紀第三、四四半期の前期青銅器時代の文化層、また、南区では、ヒッタイト帝国時代の大型建築遺構の調査を行った。前者では、数多くの炉址を確認、それらが金属生産と関わる可能性を確認した。この調査は出光美術館、JKA、住友財団、千葉工業大学の助成を得て実施した。

② 第 14 次ヤッスホユック遺跡発掘調査（令和 5 年）

（大村正子アナトリア考古学研究所研究員）

第 14 次ヤッスホユック発掘調査は、9 月初旬から 12 月初旬にかけて遺丘頂上部で確認されている前期青銅器時代、前 3 千年紀第四半期宮殿址の一部の本格的取り外しを行い、その直下から火災を受けた建築遺構を検出した。これらの建築遺構は、アナトリアの都市化を考察する上で重要な意味を持ち合わせている。この調査は JKA、住友財団、文化財保護・芸術研究助成財団の助成を得て実施した。

③ 第 14 次ビュクリュカレ発掘調査（令和 5 年）

（松村公仁アナトリア考古学研究所研究員）

第 14 次ビュクリュカレ発掘調査は、4 月下旬から 7 月初旬にかけて、ヒッタイト帝国時代に関連する建築遺構の発掘調査を行った。帝国時代の建築は鉄器時代の建物が建造される際にかかなりの部分が取り外しされていることが明らかとなっており、鉄器時代の城塞の取り外しと同時に城塞の外の部分の発掘を行った結果粘土板文書を確認。その解読によりヒッタイト帝国とエジプト王国の関

わりの一部が明らかになった。この調査は日本学術振興会科学研究費補助金、千葉工業大学の助成を得て実施した。

④ トルコ発掘調査報告会（2023年）第30回トルコ調査研究会

（大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

2023年に行った第36次カマン・カレホユック発掘調査、第14次ヤッスホユック発掘調査、第14次ビュクリュカレ発掘調査、第30回トルコ調査研究会を、2024年3月3日（日）、4日（月）の二日間にわたり東京国立博物館平成館大講堂で行った。

⑤ アナトリア学勉強会（大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

トルコにおける発掘調査、研究を行う上で、若手研究者の養成を目的としてアナトリア学勉強会は、令和5年4月～令和6年2月までの間、第277回から第285回月までの9回、オンライン、ハイブリット、対面形式で行った。

⑥ フィールドコース（2023）

（大村正子アナトリア考古学研究所研究員）

日本、欧米、トルコの学生を対象として、7月中旬から8月中旬にかけて考古学、植物考古学、形質人類学のフィールドコースをアナトリア考古学研究所で行った。

⑦ 収蔵庫修理と出土遺物整理

（大村正子アナトリア考古学研究所研究員）

旧収蔵庫修復作業が完了。これまでカマン・カレホユックから1985年～1996年に出土した遺物整理を行った。

（2）中近東文化センター附属博物館

① 展示活動

ア. 本年度は、昨年5月より新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に変更となったため、体温測定、マスク着用は任意とし、平時の対応に戻した。

開館日合計：152日

イ. また、上記に伴い、三鷹市、武蔵野市と行っている連携事業の特別開館については両市とも実施した。

武蔵野市の夏の特別開館は、8月21日より27日まで開催、三鷹市の秋の特別開館は10月18日～22日まで開催し、多数の方が来館された。

②公開講座

ア. 親子体験講座

武蔵野市とタイアップし地元小学生と親向けに博物館展示品のスケッチと粘土の焼き物絵付け「古代オリエント探求—粘土で作ろう！中近東の宝物—」を7月に2日間実施、抽選により20組52名の親子が参加した。

③収蔵品の管理

収蔵庫の配置替えと移動、棚卸は完了、基本財産台帳とデータベース、現物の照合確認作業を継続実施し、ほぼ完了した。

(3) 三笠宮記念図書館

本年度は、博物館同様、新型コロナウイルス感染症の2類から5類への変更に伴い平時の対応に戻した。

開館日合計：143日

(4) 三笠宮殿下研究保存活動

新型コロナウイルス蔓延で中断していた三笠宮崇仁殿下のご研究資料の整理、記録の作成を令和5年1月から再開し継続実施した。

(5) 地元自治体との連携事業

① 三鷹市

三鷹市民向けの秋の特別開館（10月18日～22日）に併せ、期間中に演奏家を招いて多目的ホールにてジャズコンサートを開催、博物館見学を含め市への多数の応募により抽選で来館された市民の方に好評を博した。

② 武蔵野市

上述の通り、夏季の特別開館、親子体験講座を実施した。

(6) 広報活動

対談（大村幸弘アナトリア考古学研究所所長）

中近東文化センターの広報活動の一環としてアナトリア考古学研究所が主催し、令和5年4月から令和6年3月までの間、下記シリーズでそれぞれ3回ずつ対談を行った。

第Ⅰ期：三笠宮崇仁親王殿下と古代オリエント史（Zoomライブ配信）

第Ⅱ期：中近東文化センター附属博物館の展示案内

（Zoomライブ配信および対面）

3. その他の事業

(1) 物品の販売（収益事業）

博物館でのカタログ、ミュージアムグッズ等の物品販売及び、ホームページによる通信販売を継続して行った。

以上